

2016. 8. 05

歴史民俗資料館だより No.115

長崎市歴史民俗資料館

〒852-8117 長崎市平野町7番8号

TEL (095) 847-9245 (FAX 兼用)

<http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/820000/828000/p009251.html>

くんち資料展

会期 8月25日(木)～10月9日(日)

展示品 くんち衣装・幕・楽器・書蹟・絵画・記念品・絵葉書など 約100点



長崎諏方御社之図

岡月洲筆 明治11(1878)年 個人蔵

寛永11(1634)年に長崎諏訪神社の秋の大祭「くんち」が始まり、今年で382年となります。

長年の間に、江戸時代の大火災、昭和の戦災や大水害、そして町名変更などをへて、時代と共に7年に1度出演する踊町の数や組合せ、演(だ)し物の多くが変化してきました。今年の上町はこれまでの本踊から今回は、上町コッコデショの演(だ)し出となりました。

今年の踊町は、上町の傘鉾・上町コッコデショ、筑後町の傘鉾・龍踊、元船町の傘鉾・唐船祭、今籠町の傘鉾・本踊、鍛冶屋町の傘鉾・宝船・七福神、油屋町の傘鉾・川船の6ヶ町です。

今回の展示に際しまして、貴重な資料を御寄贈、御提供いただきました皆様方と、今年の踊町の清明会様を始め、関係者各位に深く御礼申し上げます。



諏訪大明神尊号

正二位権中納言難波宗弘書
文久2(1862)年頃 個人蔵

諏訪神社

諏訪神社は長崎の氏神様として尊崇されてきました。

その御祭神は、諏訪大神、森崎大神、住吉(住江)大神で、御紋の梶の葉、三つ巴、三蓋松の三つの社紋を「三社紋」といって祭具は元より各種の装飾模様によく用いられています。

くんちの語源

重陽の節句、菊の節句の九月九日、この九日のくにちが「くんち」になったと言われていいます。

諏訪神社では寛永3(1626)年はじめて神楽を奏し湯立神事が行なわれましたが、大祭の最初は寛永11(1634)年でした。この時の社地は、まだ現在の玉園山に移る前の円山(現、松ノ森神社)で、9月7日、遊女高尾・音羽の両人が神前に謡曲小舞を奉納。午後、神輿が御旅所に渡御して、8日が大祭で、御旅所で湯立神事が執行され、9日無事神輿は還御されました。(慶安元(1648)年・玉園山遷宮)

なお、江戸時代の太陰暦の9月は、現在の太陽暦の10月に相当します。



羽織型くんち手拭張り混屏風

昭和60(1985)年頃 吉村愛子氏寄贈



江戸町 兵式教練遊軍士官 大正二（一九一三）年
川添弘之氏寄贈



清水崑筆 鍛冶屋町 宝船 昭和 41（1966）年頃
定成 淡紅子氏 寄贈



愛宕焼 花器（中原仁市作 長崎土壺）
くんちの踊町の演し物がレリーフされています。大正時代（1912～1925）の作品と考えられます。
野々村 俊明氏 寄贈



清水崑筆 おくんちかっぱ屏風
昭和 45（1970）年頃 清水梢太郎氏寄贈



船大工町 川船根曳衣装
昭和 52（1977）年 光永義久氏寄贈



紺屋町 川船船頭衣装
昭和 8（1933）年 若山静枝氏寄贈